

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192100048		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームすつつ		
所在地	北海道寿都郡寿都町字新栄町166番地8		
自己評価作成日	平成29年2月25日	評価結果市町村受理日	平成29年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寿都湾が眼下に見える自然豊かな閑静な環境の中に位置しています。利用者様が住み慣れた地域で楽しみを持ち生活が送れるよう、地域行事への参加、馴染みの方とふれ合いや保育園園児と定期的な訪問等地域の方との交流が図れるよう支援しています。協力医療機関による定期的な訪問看護を受け、相談、助言を頂き早期受診対応や、24時間連絡できる体制を取り連携を図っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0192100048-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームすつつ」は、寿都町中心部の高台にある1ユニットの事業所である。建物2階は町営の高齢者住宅で1階に当事業所と法人の小規模多機能ホームが併設している。同フロアーに地域交流の場「共生ホール」があり、小、中、高校生によるクリスマスコンサートの鑑賞や歌声喫茶に参加している。任意団体が月曜日に開店している「風のごはんや」のメニューを見て住民と一緒に昼食を楽しんでいる。近くに学校や行政施設、商店などがあり、山や海の景観を眺めながら周囲を散歩したり、スーパーや馴染みの店で買い物をして住民と自然に触れ合っている。町の行事に参加して地域の知人に会うこともある。開設5年を迎え管理者は行政との緊密な連携の基に、運営推進会議には町内会長や民生委員の参加も得て、地域に根差した運営を行っている。法人研修や地域ケア会議の事例検討などを活かし、職員の資質向上にも取り組んでいる。随時ミニカンファレンスで対応を話し合い、介護計画を基に個別のケアを行っている。利用者の重度化が進む状況もあり、遠方の家族とも信頼関係を深めながら頻繁な話し合いを持ちたいと考えている。職員の定着率も高く、利用者や家族の安心感につながっている。職員は品数多くして美味しい食事を提供し、畑で採れた食材も活用しながら昔の懐かしいおやつ作りが楽しめるように工夫している。利用者の得意な面を活かして場面づくり、自信が持てるように丁寧に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアが提供出来できているか、職員間で振り返り実践できるよう努めていますが全職員が実践できていない部分もある。	住み慣れた地域の中で、その人らしい生活を支えるという、理念の内容に沿って地域に根差したサービスを実践している。職員の採用時に理念を伝えるとともに、職員は日々理念を意識してケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	他事業所とふれあ～寿祭りの開催や運動会見学、敬老会、お祭りに参加し地域住民の方と交流を図っています。	地域交流の場「共生ホール」で行っている歌声喫茶に参加したり、ふれあ～寿の利用者のための小、中、高校生によるクリスマスコンサートを鑑賞している。年に数回は保育園児が来訪し、お遊戯の披露や折り紙細工などをして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けての取り組みは、十分と言えない現状にあり、これから取り組んでいきたいと考えています。新年度より町内会に入会予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告等、意見や要望を伺いサービス向上に活かせるよう取り組んでいます。遠方の家族様が殆んどで、議事録や、個別にホーム便りの送付を行っています。	2ヵ月毎に法人の小規模多機ホームと合同で会議を行い、町内会や行政の参加を得て、防災、町内会への入会、ボランティア導入、テーマの充実について意見を交換している。遠方の家族が多いこともあり、会議に参加は得られていない。	各会議案内に具体的なテーマを記載し、参加が難しい家族の意見も得て会議の話題にし、家族の関心ごとが会議に活かされるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町関係者と、適宜情報交換等を行い、事業所の事例等報告し連携を密に助言等頂いています。	町の担当者に制度利用の確認や事例を相談して今後の方向性を話し合っている。生活保護担当者の来訪時に情報を提供し、費用軽減の相談などで連携を密にしている。町のケア会議に参加し社会資源の情報も得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人職員研修を実施しています。身体拘束をしないケアを実践しています。安全を守るための行為が拘束に接触していないか都度職員間で話し合いをしています。	年2回、研修で虐待・身体拘束について学びを深め、身体拘束禁止行為の11項目も確認している。会議やケアの中で事例を取り上げて拘束をしない方法を話し合っている。1階の玄関は昼夜間とも中から開けることができ、日中に利用者が外に出たい時は職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回勉強会で不適切なケアがなされていないか、都度職員間で話し合い意識を持ち防止に努めています。		

ふれあいの里 グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	寿都町社会福祉協議会の自立支援事業や成年後見制度を利用されている方がおり活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点や質問事項について分かりやす説明に努めている。日頃より説明等できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ご家族様に状況を伝え、意見・要望を伺っていますが、不足な面もあり要望等話が聞けるよう雰囲気作りに努め貴重な意見を頂けるよう取り組んでいます。	遠方の家族が多く来訪頻度は少ないが、2ヵ月毎に通信と健康や生活の様子をお便りにして家族に送っている。来訪時や電話で報告し、ケアの対応や介護計画の意向も聞いている。意向や承諾などは個人記録に記載して共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、業務の中で利用者の状況や業務内容などについて、意見、提案を聞き、改善点を話し合い運営に反映するよう努めています。	ケアの対応で、随時ミニカンファレンスを行い利用者の状態を確認している。2ヵ月ごとの全体会議で職員の提案を試しながら評価し、業務改善につなげている。必要に応じて個別面談を行い職員の意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数により資格取得のための支援や、外部研修を受ける機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が役割を持つことで、やりがいや意識向上につながるよう取り組んでいる。法人で経験年数別研修、目的別研修を年間で計画し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、ケアマネ連絡会に参加し、居宅介護支援事業所、診療所、包括支援センター職員との事例検討等、情報交換を行い連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様、関係機関担当者と一緒に面談し、困りごとや不安なことを聞き安心感を持って利用して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、関係機関の方と本人、家族様に面談し要望、不安なことを汲み取れるよう心掛けて支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所の取り組み支援や他サービス内容を説明し、本人、家族様の状況に合わせた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを職員間で情報共有し、達成感が得られ充実した生活が過ごせるよう支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、電話等で体調面や様子を伝え、ご家族の要望を伺いながら、毎日のケアに取り入れている。又遠方の方には、来町時外出の機会を持って頂くようお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人が気軽に立ち寄れる雰囲気作りを心掛けています。馴染みの美容室に出掛ける支援行っています。	住んでいた近所の友人が頻繁に来訪し、居室内で過ごしている。家族の協力でお墓参りに出かけている。ドライブ中に住んでいた自宅周辺を通ったり、馴染みの店で洋服の買い物支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、身体状況を見極め利用者同士が助け合い出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院、他施設先にお見舞いや、面会を行っています。必要時ご家族様から相談等に応じられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、言葉や表情などから希望や意向を汲み取るよう努め職員間で話し合い支援を行っている。	会話の中で利用者の得意な面を引き出し、場面づくりを行っている。職員間で利用者の趣味や嗜好を話し合っているが、記録として充分とはいえない。	アセスメントシートの備考欄に、趣味や嗜好などの情報を記載して変化などを追記し、利用者の現在の意向を記録でも共有することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に、生活歴、日々の過ごし方など伺ったり、本人と会話の中で馴染んできたことなど職員間で情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報、体調、精神的変化や本人との会話から記録記入し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人の情報を家族様から聞き、職員間で話し合い計画に反映している。	随時、ミニカンファレンスで利用者の状態を確認し、6か月ごとにモニタリングを行い介護計画を1年間で更新している。短期目標に沿って日々の記録を行い、今後はサービス内容の変化なども記載して見直しにつなげたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、心身の状態など、本人の言葉を交え記入し職員間で情報共有を図り介護計画の見直しに取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族様からの欲求等個々に合わせ、直ぐ対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生、中学生、高校生の方がふれあ～寿の入居者を対象にクリスマスコンサートを開催して下さったり、老人クラブの皆さんと歌声喫茶に参加し地域の方とふれあい楽しんで頂けるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の協力医療機関へ月1回の定期受診対応を実施。体調に変化があれば、治療方針等、主治医、家族様と適宜話し合いをの場を設けています。	ほぼ全員が町立診療所に通院し、事業所に対応している。専門的な治療が必要な時は、主治医の説明のもとで家族とも方針を話し合い、入院治療になることもある。今後、受診記録を利用者ごとに分かりやすく整理する予定である。	

ふれあいの里 グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理で体調の変化や経過を報告し、主治医の指示を受け早めの受診対応を行っている。必要時、24時間連絡、相談、受診できる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医師からのお話を家族様と同席し情報を頂いています。入院中も定期的に面会し状態の把握に努めています。又退院に向け適宜情報を頂いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合に係る指針を説明し文書で同意を得ています。長期的に継続して治療が必要な場合は主治医、家族、事業所間で方針を話し合うことを説明しています。	利用開始時に重度化の対応と看取りの考えを文書で説明し、入退院の経過で対応が難しい内容も説明している。病状変化の時は主治医の判断の下で話し合い、家族の意向に沿って方針を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急、事故対応の勉強会を行い、実践し身に付ける取り組みをする。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定総合避難訓練を、消防署立会いで併設の他事業所と実施。災害に備え、食品、水などの備蓄品も完備している。	昨年9月に、消防署立会いで日中を想定した避難訓練を実施しているが、住民の参加は得られていない。3月中に夜間を想定した訓練を予定している。町の災害マップや避難場所を確認しているが、地震や土砂災害は今後の課題になっている。	次回の訓練に住民の参加が得られるよう、具体的な働きかけを期待したい。防災マニュアルに沿って地震等で事業所内の危険箇所やケア場面での対応について話し合うことも期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとり一人に合わせた声掛けや言葉使いに気をつけ、人格を尊重し支援をしています。	職員は利用者の言動を抑制せず、上目線にならないような話しかけを実践しており、社内研修や採用時研修で確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のしたいことや希望を伺いながら自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり、自分の好きなことを行い過ぎて頂けるよう、希望に沿った支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望で馴染みの美容室へ出掛ける方は少なく、外出困難な方は出張美容を利用しています。外出時、入浴時職員と一緒に洋服を選んだり支援しています。		

ふれあいの里 グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	共生ホールで開催の風のごはん屋、町内で外食等、普段と雰囲気を変えて食事を楽しんで頂けるよう支援を行っています利用者全員が作れるおやつ作りを楽しんで頂いています。	月2回の手作りおやつの日を設定し、ペコ餅や饅頭を作っている。外食で町内の食堂へ行ったり、ペランダで流しそうめんやバーベキューを開催し、利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量、水分量を個人別に記入している。適宜口腔、嚥下状態に合わせた形状で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、口腔清拭、義歯洗浄等出来ない部分の介助を一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した声掛けや誘導でトイレでの排泄を行っている。	排泄時間を記録し利用者ごとの排泄パターンを確認している。訴えの出来ない利用者には意識してトイレに誘導し、失禁のない生活を送ってもらっている。便秘防止のため乳製品や水分を多めに摂る支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認を行い、水分、乳製品の提供や、体操など取り入れ予防に努めている。困難場合は内服薬でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調確認を行い、入りたくない場面では、個々に合わせ無理せず時間を置いて、声掛けの工夫をしている。	熱発の症状があれば入浴日をずらす、平日の午後にゆっくりと湯船につかっている。衣服を脱ぎやすくするため脱衣場も暖かく、気持ちのよい入浴時間を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度、音、明かりに配慮し安眠して頂けるよう気を付けています。昼寝など個々に合わせ自由にとって頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルがあり使用している薬の用法を把握できている。薬の副作用等気をつけることは、都度職員に伝え周知し、誤薬を防ぐために、個別にケースに入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し得意なこと、出来ることを継続し楽しみや気分転換が出来るよう支援している。		

ふれあいの里 グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望される方は、個別に馴染みの美容室や、買い物に出掛けている。季節により天気の良い日、海、畑の様子を見ながら散歩したり、定期的に行事でドライブや外食を楽しんでいます。	花見に寿都高校のグラウンド、紅葉の季節に黒松内や、寿都道の駅へ行っている。ホームの前の駐車場で散歩したり畑の収穫や、ベランダで外気浴や日光浴もしている。フレアー寿まつりも利用し、外出の機会を多く取り入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より承諾を頂き、金銭はホームで立替払の対応しています。外出時本人の希望があれば、支払いを一緒にして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話を掛けることはないが、取り次ぎや代行、手紙のやり取りが行なえるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内が広く、音が響きやすい為、不快にならないよう気を付けている。季節感を感じて頂ける飾り付けをし、落ち着いた過ごせる空間作りに努めている。	掃除の行き届いた広く清潔感のあるリビングスペースや台所には観葉植物や利用者の作品を飾り、複数のソファを置き好みの場所で過ごしている。エアコンで適温に暖かく保たれ加湿器も使い、過ごしやすい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士、居心地良く過ごせるようソファの配置など工夫しゆっくりくつろげるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様の馴染みのある物を持参して頂き、写真を貼ったり落ち着いて過ごしていただけるよう工夫をしている。	明るい居室に利用者の思い出の品やぬいぐるみ、芸能人のポスターが飾られ自分の好みのものに囲まれ安心して暮らしている。どの部屋も温湿度計がかけてあり、利用者ごとに好みの温度で設定した暖房で暖かく暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリーの作りになっており、各所に手すりが設置され、安全に歩行や、車いす移動が出来るスペースもある環境になっている。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームすつつ

作成日：平成 29年 3月 26日

市町村受理日：平成 29年 3月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	各会議案内に具体的なテーマを記載し、参加が難しい家族の意見も得て会議の話題にし、家族の関心事が会議に活かされるよう期待したい。	参加できない家族様に事前にテーマに関する意見等をお願いする。	運営推進会議のテーマを設定した計画書をご家族様に送付し、要望、意見等頂き会議に反映する。	6ヶ月
2	23	アセスメントシートの備考欄に、趣味や嗜好など情報を記載して変化などを追記し、利用者の現在の意向を記録でも共有する事を期待したい。	現在の利用者の変化等の情報を記録に記載し情報を共有する。	ミーティングで、利用者の出来る事、出来なくなってきたこと等、話し合い、基本シートや、記録に記載し情報を職員間で共有し、本人の意向に添うように努める。	6ヶ月
3	35	避難訓練に住民の参加が得られるよう、具体的な働きかけが不足している。防災マニュアルに沿って地震等で事業所内の危険個所やケア場面での対応について話し合う。	避難訓練に近隣住民の協力を得られる取り組みをする。防災マニュアルに沿って会議で話し合いを持つ。	避難訓練の際は、ご家族様、地域住民、民生委員にも働き掛けると共に、近隣に住む職員家族様等の協力を得られるよう、協力体制を築く。防災マニュアルを基に会議で話し合いを定期的に持つ。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。